

「時代だから」にモヤモヤ

(野木町 花井家)

暮らしを根本から見直して

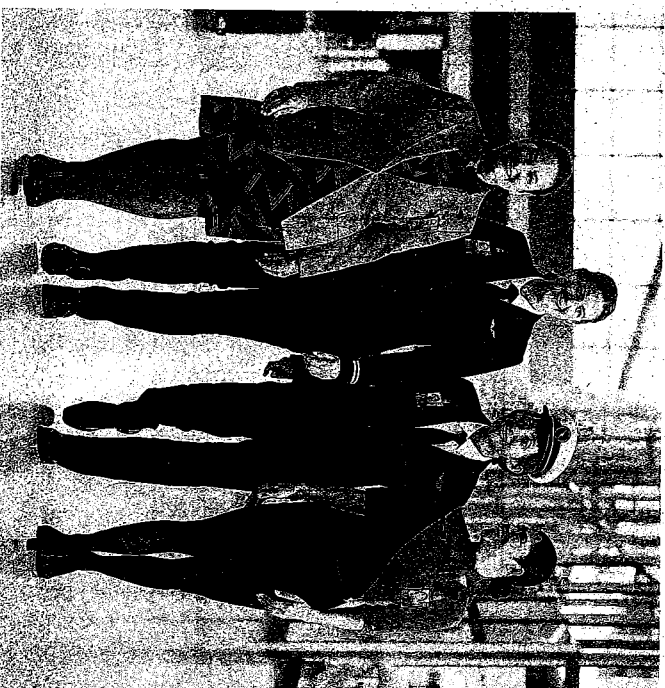
續井といふところより、ぢ
 が、鐵道の昇進や配置は公
 平ですか。家庭人として
 家事や子育てや介護は
 公平まで公平ですか。男
 女格差の解消は加増せず、
 公平な社会をひたすために
 は、寧ろを根本から考え
 る必要があると思ひます。
 仕事の時間、家庭人とし
 ての時間、地域住民として
 の時間、休息・睡眠の時
 間、そして個人としての時
 間……。これらの男女が公平
 に確保でき、保障される社
 会であつてほしい。
 または、通勤時間を含め
 て仕事に関わる時間を公平
 にしてあげてほしいが。
 そして、お金のために馬車
 馬のように働くのではな
 い、ハイハイがハイハイで
 ハイハイの実現を目指す
 し、政府や会社もそれを後
 押しするよう社会である
 いことを望みます。

豪カンタス航空の取り組み

國際民間航空機關 (I

女權第一の創刊者 一 部

實にパイロットの比率高める



カンタス航空で働く女性パイロットや客室乗務員ら。国際女性デーに合わせて女性だけで便を運航するなど、様々な取り組みを進める三カンタス航空提供

社内では研修などを通して上級管理職に就く女性を増やす試みや、女性パイロットの育児休暇後復職支援などの女性章用施策を行っており、グループ全体の上級管理職の40・7%、カンタス航空の空取締役会の半数が女性だという。一方、男女比改善に向けた取り組みは道半ばだ、ともしお任者のウオルシユ氏は「多様は人材のハイブリッドを強化することで長期的な変革を推進していく、誰もが活躍できる未来を創造する」とコメン

• $\text{O} \rightarrow \text{N} \rightarrow \text{C} \rightarrow \text{T}$

...and the fact that the *in vitro* and *in vivo* results are in good agreement.

日本での状況は、

方 園主校通達に於て

と 日本が主要な輸出入品

024井山町地区で72

70人。160名女性は

142人で、全体の2%

2月のミラノ・コルティナ冬季五輪ではフィギュアスケート「リクリゅう」ペアの活躍が話題をさらった。男女が同じ氷の上で対等に心を合わせて演技する姿に心を奪われた人は多いが、この組織がなかったら、2人の笑顔は見られなかっただろう。今から100年前、わが国の女性のスポーツ参画に大きな転機をもたらした「日本女子スポーツ連盟」について、読者の皆さんと一緒に学んでいきたい。

■埋もれた歴史

恥ずかしながら、この組織のことは知らなかった。図書館で調べ物をしているときに偶然、「日本女子スポーツ連盟」(JWSF)の文字を見つけた。何だろう。この団体は、創設されたのは、今からちょうど100年前の1926(大正15)年4月とある。調べてみる価値はありそうだ。

調査を始めてすぐに、なぜ、知られていないのか分かった。資料がほとんど残っていないのだ。それでも調べていくと、ある研究者にたどり着いた。「地味なので、注目されることはありませんが、女性のスポーツ参画に重要な役目を果たした組織です」と話すのは中京大学副学長で同大スポーツ科学部教授の来田享子さんの(62)。日本のスポーツとジェンダー研究についての第一人者である。

来田さんは論文を書くため、海外にまで調査を広げ、JWSFに関する資料を研究した。苦勞の末に判明したのは、日本のスポーツ黎明期である大正から昭和初期にかけて大きな役割を果たしたこと。特に女子選手の窓口になり、積極的に海外大会への選手派遣に尽力したことだった。

いわば、縁の下力持的な存在だが、この組織が成し遂げたことには意味があると来田さんは指摘する。「人見絹枝さんが海外で活躍するきっかけをつくったことです。それに前畑

女性選手飛躍へ 「山」は動いた

秀子さんらが続いた。JWSFがなければ、日本の女性スポーツはもっと立ち遅れていたでしょう」

■海外派遣に尽力

当時の選手派遣は男子のみ。海外から女子選手が招待されても、対応する部署すら存在しなかった。そんなときに窓口になったのが、JWSFだった。折しも欧州で女性のスポーツを促進する「国際女子スポーツ連盟」が発足。JWSFはその下部組織としてスタートした。会長は医学博士で大阪毎日新聞の運動部長だった木下東作氏が務めた。彼らの努力は実を結んだ。有名なのは1928年のアムステルダム五輪。人見さんは日本人女性として

③日本の女子スポーツの黎明期の資料が数多く集められている中京大学スポーツミュージアム＝愛知県豊田市で

④五輪で演技する「リクリゅう」の三浦璃来(左)、木原龍一組＝2月、ミラノで(布藤哲矢撮影)

初出場し、女子8000メートルで銀メダルを獲得した。日本の女性でも世界に挑戦できるんだ。ガラスの天井を破ることに一役買った。それでも、JWSFには功罪両面があったと来田さんは言う。「功は女性のスポーツ普及に貢献したこと。罪は結局、男性の管理下で組織運営が行われる流れを変えられなかったことです」

■真の男女平等へ

世界を見ても、スポーツの分野で女性が軽視される時代は長く続いた。五輪に女性が初出場したのは1900年のパリ五輪だが、選手の男女比がほぼ同じになるのは、2024年のパリ五輪まで待たなければならなかった。

真のジェンダーフリーの実現にはメディアの力が不可欠だと来田さんは言う。「日本のスポーツは、学校の部活動とメディアの協力で普及・発展してきた。しかし、先の冬季五輪を見ても、今のメディアは若くて見栄えがする選手や、SNSで人気が出るような話題しか取り上げません。どうやって自分たちの売り上げを伸ばすかというところに集約しているように見えます。男性、女性で区別する、メダルを取った、取らないで判断する報道姿勢は変えるべきではないでしょうか」

耳が痛い指摘だ。来田さんがくれた気付きを大切に、本欄では今後もスポーツジェンダーについて定期的にお届けしていきたい。



人見絹枝さん(中央)と日本女子スポーツ連盟の木下東作会長(左)。左は国際女子スポーツ連盟のアリス・ミリア会長(人見絹枝著「ゴールに入る」より)



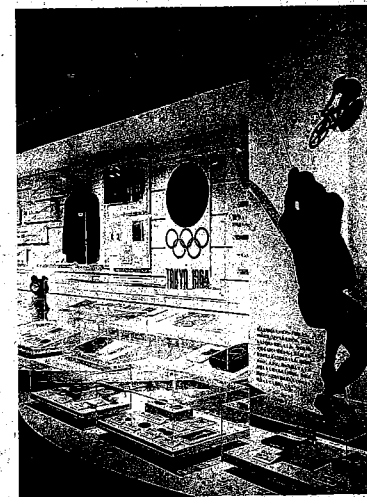
スポーツ
探偵

THE
SPORTS
DETECTIVE

ジェンダー

×

100年前の挑戦



国際女子スポーツ連盟の規約第3版(1928年)。極めて珍しい資料(中京大学スポーツミュージアム収蔵)

文・谷野哲郎／紙面構成・中村誠

・ フォーラム

「女性初」を考える

「女性初」という表現を見聞きしたとき、あなたはどのように感じますか？ 勇気づけられ、尊敬するという人もいれば、違和感を抱くという人もいます。若い世代や男性側の視点についても取材し、識者や読者のみなさんと一緒に、この言葉について考えます。

12 受け止め

めずらしさより働きぶり見て

高校時代に応援団長 佐藤瑚々花さん

あいさつは「おす」、ボロラン(ぼろぼろの学生服)で腰から手ぬぐいを下げ、冬でも素足にゲタ。こうした昔ながらのバンカラ応援で知られる岩手県立盛岡第一高校で2022年夏、101代目にして初めて女性の応援団長が誕生した。現在大学2年生の佐藤瑚々花さん(20)だ。



夏の全国高校野球選手大会で応援をする佐藤瑚々花さん。本人提供

旧制中学が前身の同校で応援団ができたのは1922(大正11)年。現在は全校生徒を応援団とし、応援委員会が指揮をとる。佐藤さんは、2年生から応援活動に関わっていた。一度始めたならやり通す性格で、全校生徒による信任投票で選ばれた7人の応援委員のうち、最終的に団長に手を挙げたのは自分だけだった。先輩や友人からは、男子の名前をあげて「彼が団長でしょ？」という反応もあったが、総じて応援してくれた。

合宿には、例年の3倍の人数の

卒業生がやってきた。「女子初」について直接言葉をかけられることはなかったが、注目されているのを感じた。「女子でもできるのか」という批判的な目線にも、そして期待にも応えたいと思った。

大事にしたのは「りりしさ」だ。従来の応援団のような雄々しさを演じて、素の自分とは違うので見ているほうは冷めてしまう。高校野球などで炎天下にはかま姿で旗を振るのは体力的にきつかったが、疲れを見せず、淡々とこなすことを意識した。

感極まる時もあったが、人前では泣かないと決めた。あくまで主役は選手だし、「女の子らしい」と思われたくなかった。

とはいえ、声量や低音では男子にかなわない。古いバンカラに憧れて高校を選んだ男子の応援委員からは、「俺が団長の方がよかった」と言われたことがある。

だが、仕事ぶり全体を見て、彼は前足を撤回した。団長は、応援歌練習の仕切りといったマネジメントや会計もする。効率的に練習ができるよう声かけなどを工夫し

た。学校内外からは「かっこよかった」「所作と統率力がすばらしい」などの評価も得た。

日本社会ではたびたび「女性初」が取り上げられる。就任したときに性別に注目されるのは、「実績がないから」だと思う。

大学進学後、在京同窓会から行事参加の誘いがあった。団長時代の頑張りではなく「女子初」というめずらしさに注目されていると感じた。「『初』ではなく働きぶりを見てほしい」。それが今の思いだ。(杉山あかり)

看護職で「男性初」垣根なくなる予兆

日本看護協会会長 秋山智弥さん

1995年の朝日新聞家庭面に「少数派の男性たち」と題して、大学病院で働く男性看護師が取り上げられました。それから30年。記事の看護師、秋山智弥さん(57)は男性として初めて看護協会のトップに就きました。「男性初」から見えた世界とは。



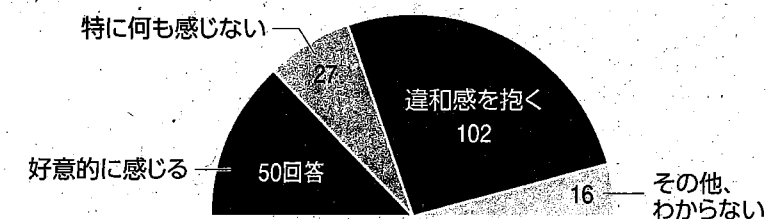
「実績を出すことに男女は関係ないので。もし『女性初』でうまくいかなかったとしたら、それは周りの失敗だと思います。『女性初』にあわせた環境を整えきれなかった。反省すべきは社会の側で、女性の側ではありません」

くハードルは女性より低いと感じます。それとは逆に『女性初』は男性社会の中で大変な苦勞をしてやってきたという意味で、偉業だと感じます」

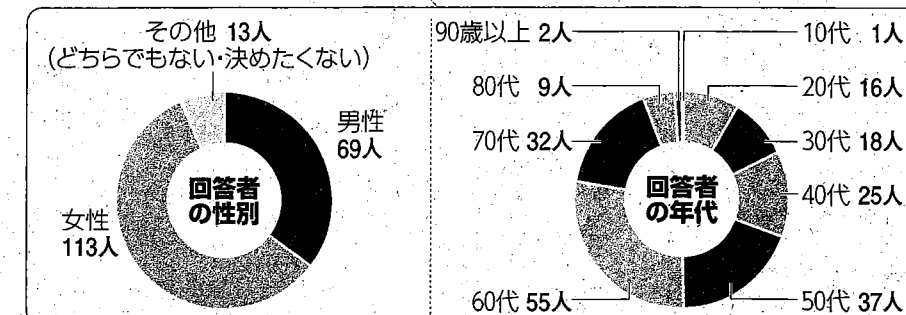
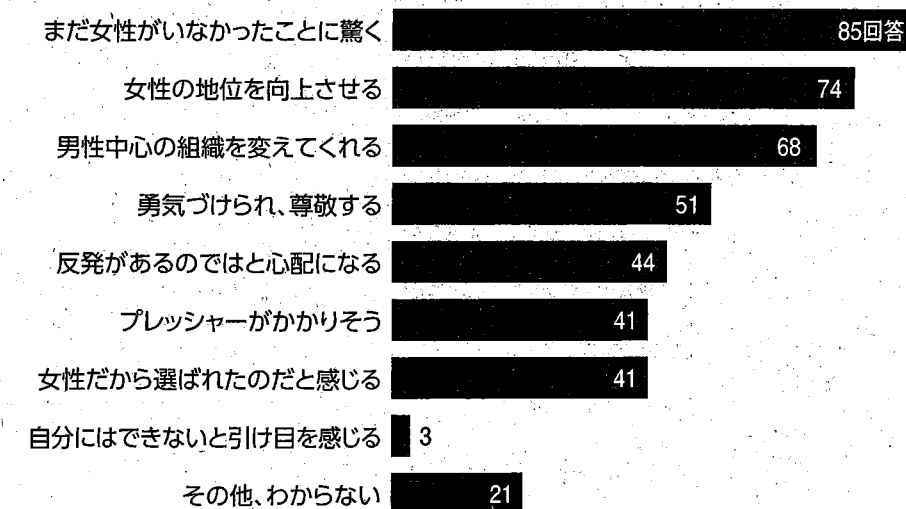
——「女性初」「男性初」という表現はどうなるべきですか。

「実は、各国の看護師協会で行く国際看護師協会のトップも私と同じく初めて男性になりました。世間では『男性初』、『女性初』

「女性初」という表現を聞いたとき、どう感じますか？



「女性初」となった人について、どのような印象を持ちますか？ 三つまで回答可



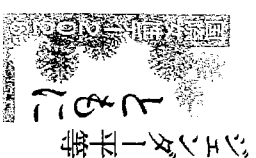
朝日新聞のアンケート 2026年2月5～26日 計195回答
(どなたでも自由に回答できるため、世論調査のような統計的意味はありません)

アンケートでは、「女性初」という表現を聞いたときに「違和感を抱く」と答えた人が半数を超えました。結果は<https://www.asahi.com/opinion/forum/>

2026.3.7

仕事・家事の負担 当たり前じゃない

「女性の休日」各地で



シエンター平等
とともに

が広がり、今回初めてどな

るアクシヨンプが企画され

た。

小学6年の娘がいる豊田

区の団体職員芦田尚美さん

(47)は「働く女性が増えた

のに家事育児は女性ばかり

前だった半世紀前、アイ

リ」と美感を吐露。結婚に

スツパで女性たちが仕事

や家事を一齐に休み自分た

ちの存在意義をアピールし

た「女性の休日」にちなむ

アクシヨンプが6日、全国各

地で開かれた。東京・新宿

駅前では参加者がミモザの

花などを手に、シエンター

平等を目標して「社会を変

えよう」と声を上げた。

1975年10月24日の

「休日」には、アキスツ

正社員の場合は男性はか

り」と問題意識を口にし

た。

スピーチに立った人たちは

が最も進んだ国となった。

歴史的一天を描いたドキ

ュメンタリー映画が昨春秋

変える」と女性の連帯を呼



国際女性デーのシンボルのミモザなどを手に
声を上げる人たちは6日、東京都新宿区で

横浜では合唱

横浜市内西区の横浜駅前でも6日、女性を中心に200人が「男女賃金格差なくせ!」「私たちは沈黙しない!」などと書いたカードを手に街頭アクシヨンプを行った。映画の集会シーンで合唱する曲の日本語版「女たちは

起ちあがる」を歌った。伴奏の弁護士高橋由美さん(56)は「『祈りはしない勝ち取るだけさ』といった詞が共感を呼んだと思う。多くの人が集まり、両性平等や自由のために声を上げられて良かった」と話した。非正規雇用を含め農業、医療現場などで働く15人ほどがマイクを握り、差別解

消を訴えた。性暴力根絶を訴えるテモの運営に携わる女性会社員(29)は、性暴力に遭っても丸く収めようと黙らざるを得なかった女性たちに出席してきた経験を都紹介。「男性中心社会で都合が悪い存在として追いやられても、私は自分の人生を愛するため声を上げた」と語った。(神谷慶)



映画の中で女性たちが合唱した曲を日本語歌詞で歌う参加者たち=6日、横浜市西区で

新宿で集会

都内では丸の内でも、企
びかけた。
業代表者らがシエンター平
等を進める働き方を語るト
イクイベント「働き方未来
会議」に、約120人が参
加。8日に関東全域の都道府県
で関連イベントの企画があ
る。(渡辺聖子、砂本紅年)

学童支援員 小林 栄 70

(東京都杉並区)

選択的夫婦別姓制度の導入は高

市早苗首相の再任で、遠のいてしまいましたが、この制度は、多様な生き方を認め合つものです。これに対し「家族の絆が損なわれる」「社会がバラバラになる」など懸念する声が根強くあるように思えます。

しかし選択的夫婦別姓は「一人一人が自らの由とする生き方を

看護師 室田 保光 57

(東京都豊島区)

国際女性デーは大切だけど、こ

の国では専門職に対する性差別があらざるまに存在する。男性助産師の問題だ。憲法で保障されているはずの「職業選択の自由」も、いには当てはまらない。保健師助産師看護師法が、助産師を「女子」と規定しているからだ。

2002年に「助産婦」から「助産師」に名称統一されたが、この



谷口 ミツコ (千葉県船橋市)
私のイラスト

選ぶ権利を有する」といっ人権思想に基づき、それを具体化するものだと考えます。選択的夫婦別姓をはじめ、多様性を認め合つことは、社会に分断を招くものではなく、人権尊重という普遍的価値で互いに結び付き、安定した社会を導くものではないでしょうか。

難しい政治情勢ですが、こつしな理解が進み、選択的夫婦別姓の導入が実現するよう、引き続き声を上げていきたいと思えます。

2026.3.7

夫婦別姓の実現に声を

男性助産師の道開いて

規定は残された。先進国やアメリカ諸国などと同様の規定はない。欧州の男性助産師からは、日本の現状を不思議がられる。私は01年度に助産専攻を修了。同期が国家試験を受け、助産師と同期が国家試験を受け、助産師となったのに、私は国家試験さえ受けれなかった。助産師はお産だけでなく、産後ケアや父親の育児支援などを担う専門職だ。ずっと訴え続けているが、この国は20年以上、変わらないままで。

上⑥⑦

男女格差解消に向けて

発言

Women's Day

「私がこの家の主です」

契約社員 志麻乃 ゆみ(仮名) 68

(東京都八王子市)

ある日、家の固定電話に出ると、若い男性の声で不動産関係の会社を名乗り、「奥さまですか？」と尋ねたのです。私は「いいえ」と答えます。「私は子どもと暮らすシングルマザー。誰だ。私は子どもと暮らすシングルマザー。誰の「奥さま」でもないからです。すると今度は「では、ご主人さまは？」と言つのです。言葉を入れず私は登りました。「私がこの家の主です」3秒ほど間が空いた後、おそおと告げられた用件は、マシヨンの買い替への勧誘。電話を切つた直後は「フー」と鼻息を荒くしてしまいが、じわじわと後味の悪さがやってきました。

男女平等が叫ばれて久しいですが、無意識の偏見や悪意なき思い込みは日常に潜んでいます。私は、一人一人の意識変革のために、これからも臆せず嫌みなオバサンでいようと思っています。

「小さな差別に気づいて

中学生 井川 奈穂 15

(東京都品川区)

私たちは行動や見た目で「男らしい」「女らしい」と言われることがある。このような発言は人々の自由を制限する「小さな差別」の始まりだと思つ。本来、何を着るか、どのような行動をとるかなどは全て「個人の自由」であるはずだ。しかし、性別によって一方的に決めつけられることで、自由に選ぶ権利を奪われていると思つ。

「こつしななければならない」や「こつあるべきだ」という無言の圧力。例えば「女は家事をするべきだ」「男は働くべきだ」という表現は日常でよく使われるが、これは性別だけを理由に役割を押しつけ、それぞれの将来の選択まで狭めてしまつ差別だと思つ。私たちはつよつ日常の何げない差別的発言にとられずに、お互いの個性や選択を尊重していくことが大切だと思つ。

お断り 今回の仮名の投稿者も掲載。